

『近くの国を調べよう』

学校名・名前	: 伊丹市立鴻池小学校	投石 悠一
実践教科	: 総合的な学習の時間	
指導時数	: 14 時間	
対象学年	: 小学 4 年生	対象人数 : 28 人

< 教師海外研修を通して感じたこと >

青年海外協力隊員と直接話すことができ、その想いにふれることができた。私自身と同年代である隊員たちが選んだ道をこの目でみて、私が教師になったことを振り返る機会になった。隊員たちは今までの日本の生活から遠く離れた地で、それぞれ環境のことや現地の教育のことを考えて過ごしていた。みなさんとても熱い想いをもって取り組んでいたように思う。人それぞれいろんなことを考えて自分の道を選んでいくのだろうが、私は日々子どもたちと一緒に過ごして、子どもたちのことを考え授業をすることを仕事に選んで幸せに思う。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

私は海外に行くのが初めてで、中国についてはテレビなどのメディアで報道されていることしか知らなかった。「遠くのこと」という漠然とした認識しかしていなかった。

AFTER

「遠くのこと」であっても、そこで日本人を含むたくさんの方が生きているんだなと思えた。普段教師として子どもたちと学校で過ごしているときにも、この子どもたちの中に将来海外で生活することになる子もいるかもしれないと考えながら接するようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

授業の目的としては、以下の2点を掲げた。

近く为国について調べ、日本と比べることで、異なった価値観があることを理解する。

近く为国について調べる課程を通して情報収集能力や、まとめる力を養う。

本校は各学年4クラスずつの中規模校で、全校生徒が約700人である。外国籍や外国にルーツを持つ児童も数人いる。私が現在担任する第4学年の児童たちは、元気で自己主張の豊かな子どもたちである。その反面自分のことに精一杯で自分と違うもの、相容れないものを受け入れることは難しいのが現状である。そのため児童間でトラブルになることもある。ゆえに目的を設定し、授業は他クラスとの交流や学年全体での指導の時間を取り入れ、普通のクラスでの指導とは違うメンバー構成での授業を行った。

については総合的な学習の時間ということで、今まで学習してきた壁新聞などと違う形式を学ぶためにポスター形式でまとめている。また、第4学年で習ったローマ字を用いてパソコンを使った情報収集にも取り組んだ。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 自分の調べたいテーマをもつ	・これから近く为国について調べ学習を行うことを確認する。 ・導入として私の中国行の話をする。	・パワーポイント ・拡大投影機 ・プロジェクタ ・中国のお土産
2時限目 自分の調べたいテーマを決める	・それぞれ、前時の私の話を参考にしながら、自分の韓国や中国について調べたいテーマを決める。 ・パソコンを使っての調べ学習も行うので、パソコン教室及びパソコン、インターネットの使い方なども学習する。	・パソコン教室 ・児童用パソコン ・ワークシート
3～5時限目 テーマについて調べる	・それぞれ、パソコンや参考となる本を用いて調べ学習を行う。	・参考となる本 ・児童用パソコン
6時限目 除さんの話を聞くために、似たテーマごとに質問を考えておく	・多文化共生サポーターとして伊丹市で働いておられる除さんにお話を聞くため、それぞれがなにに注目して聞くのかを考える。 ・除さんは韓国のお話を聞くにあたっての質問を考える。	・ワークシート
7時限目 除さんの話を聞く	・除さんに韓国のことについてお話していただく。	・プロジェクタ ・拡大投影機
8～9時限目 調理実習	・児童全員に、チヂミや餃子の作り方を調べさせ、実際に調理し、他クラスの調理したものを食べ比べる。	・調理に必要な道具

10時限目 永峰教諭の話聞き、私の話と比べて同じ行程で中国にいても人によってみているものが違うことを学習する	・永峰教諭の中国行についての話を聞き、私の中国行の話と比べて聞く。	・プロジェクタ ・パワーポイント ・パソコン
11時限目 自分のテーマの内容と相当する日本の文化についての比較の仕方を学習する	・私が日本のものと近くの国で似ていると思うものの例をみる。それをふまえて自分の調べた内容に、日本で相当するもの、似ているものを比べていこうとする。	・プリント ・提示資料 ・プロジェクタ ・パソコン
12～13時限目 自分のテーマの内容と相当する日本の文化について調べ、ポスター形式にまとめる	・前時に学習したことをもとに、近くの国のものと日本のものを比較しながらまとめる。 ・発表の練習をする。	・ポスターの原稿
14時限目 発表	・自分が調べたことをもとに書き上げたポスターを発表する。	・ポスター

2. 授業の詳細

1時限目 「近くの国を知ろう」

目標

近くの国に興味をもつ。

内容

これから調べ学習を行うことを伝える。

日本の世界の中での位置を確認する。

日本の近隣の国を確認する。

投石の中国行の写真やお土産を見せる。

次の時間はそれぞれ中国や韓国について調べていくポイントを決めていくことを伝える。

<ココがポイント>

写真やお土産を見せながら、調べさせたいポイントをしぼっていく。

服装 交通機関 食べもの 気候 遊び

写真「地下鉄」

生徒の反応

興味深そうに聞いている児童が多かった。児童に夏休み前から私が中国に行くことや、2学期の総合的な学習の時間が近くの国の学習になることをあらかじめ予告しておいたためと思われる。ただ、中国から持ち帰ったお菓子については、中国食品に対する安全性への不信感のためか、口にしたいくないという児童もいた。

2 時限目 「調べるテーマを決めよう」

目標

自分の調べたいテーマをもつ。

内容

前時の振り返りを行い、調べる観点がどのようなものがあったのか思い出す。

自分の調べたいテーマをワークシートに記入する。

これから調べ学習で書籍だけでなく、パソコンを使用することをふまえて、パソコン教室・パソコンの使い方についても学習する。

<ココがポイント>

本学年の児童は、調べ学習にパソコンを用いることやパソコンの電源の入れ方やローマ字での文字入力を行うのが初めてである。加えてインターネットを使う際の危険性についてもふれておく。

次回から書籍やパソコンを使って調べ学習を進めていくことを確認する。

生徒の反応

各自の興味にそって意欲的にテーマを設定しようとしていた。選んだテーマとしては、食べものが最も多かった。パソコンへの文字入力はローマ字を学習したばかりということもあり苦戦していた。

所感

児童が意欲的に取り組めたところは良かったが、『調べる』ということに対し児童が不慣れなため、どうやって調べるのか、どんな結論が出てきそうかなどの先の見通しをもって取り組み始めた児童が少なかった。これが今後の課題である。

3～5 時限目 「テーマにそって調べよう」

目標

テーマにそって調べる。

内容

自分のテーマにそって書籍やパソコンで調べる。

<ココがポイント>

調べることができる児童とそうでない児童の差が大きいことが予想されたので、児童のテーマが似通っているもの同志でグループを組み、数人ずつ作業させる。また、検索エンジンの使い方や、効果的な検索ワードの入力の仕方もあらかじめ指導しておく。

所感

調べることの進度については個人差があるものの、パソコンで調べ物をするのが初めてということもあり概ね意欲的に児童は取り組んでいた。ただ途中経過を確認した際に、既存の知識と比較している児童が少なかった。新しいものに接したときに、既存の知識と比べてみて判断することをこの後の単元の中で学んでいって欲しい。

6 限目 「近くの国を知ろう」

目標

近くの国に興味をもつ。

内容

次時に韓国から来られている除さんに来ていただき、韓国の話をしてもらうことを確認する。韓国について知りたいことや、この時点までに韓国について調べたことでわからないことを中心に質問を考える。

次時はいままで自分が調べたことや、私の第1時に話したことと比較しながら話を聞くことを確認する。

<ココがポイント>

除さんの話を聞く際に「比べながら」聞くことを6限目で初めて指導している。除さんの話についてはあらかじめ私の話とポイントを似せて話をさせていただくのでその中から、似ているところを探すのが課題となる。

生徒の反応

児童の選んだテーマは食べものに関するものが多かったのが、除さんへの質問事項では韓国の学校生活に関するもの多かった。

7時限目 「近くの国を知ろう」

目標

近くの国に興味をもつ。

既存の知識と比べながら除さんの話を聞く。

内容

いままで自分が調べたことや、私の第1時に話したことと比較しながら話を聞くことを確認する。

除さんに韓国の話をしていただく。

<ココがポイント>

私が第1時に話した内容と似た観点で除さんには話をさせていただく。韓国で売られている漫画や、食べもの、交通機関や、服装についてである。また、除さんは伊丹市内の学校で多文化共生サポーターとして働いているので、日本の学校についてもよく知っている。韓国と日本の学校両方を見られた上でのお話もしていただいた。

前時に考えた質問を除さんに伺う。

生徒の反応

児童が興味を示したのは韓国の学校の話である。特に給食のメニューが興味深かったようで、韓国の児童がキムチを好まないという話に児童は驚いていた。ちなみに市内の給食で出るキムチは人気がある。現代の韓国の子どもが親しんでいる遊びや玩具が日本とさして変わらず、ゲームやハングル版の日本の漫画であることが児童のイメージと違っていただいようだ。

所感

給食でその国の伝統的なメニューが不人気になるという話は、教師たちには妙に納得のいく話であった。児童は韓国の子どもたちがゲームやハングル版の日本の漫画を読んでいることに驚いたのは、調べてきた近くの国の遊びがもっと伝統的なものが中心であったためだろう。調べたことが全てではないことも残りの単元の中で押さえておきたい。

8～9時限目 「調べるテーマを決めよう」

目標

これまでに調べたことをもとに調理をする。

内容

これまで調べてきたチヂミや水餃子の作り方を実践することを確認する。

1・4組は水餃子、2・3組はチヂミを作り、1・2組、3・4組のペアでお互いの料理を紹介し、食べ合う。

自分たちで調べたことをもとに料理を作れたこと、他クラスにご馳走できたことを確認する。

<ココがポイント>

2クラスをペアにして行ったのは、一つは、できるだけたくさんの国の料理に触れて欲しかったことと、互いに助け合うという体験をさせたかったからである。よって、それぞれのクラスがお互いにご馳走し合うという条件をつけて行った。

生徒の反応

ものが食べられるということで児童は大喜びであった。

所感

今から思えば、児童が作った食べものが、それぞれの国ではどんな扱いをされているのか、どんな由来がある食べものなのかを全員で考えればよかったと思う。ただ、調理方法から児童が調べてくるということで、児童たちが主体的に取り組むことができたのが良かった。

10時限目 「近くの国について知ろう」

目標

同じ行程で中国へ行ってきた話を聞き比べる。

内容

私と同じ行程で中国へ行った永峰教諭の話を読み、私の第1時の話と聞き比べる。

同じ旅程で同じものを見ても人によって感じることに気づかせる。

所感

私以外の教師がくるのが珍しいため、児童が非常に緊張していたように思う。同じものを見た人から違う意見を聞けるのは多角的な視点をもつという意味で良かった。

11時限目 「近くの国と日本を比べよう」

目標

自分が調べた近くの国の事柄と、それに似通った日本の文化を探す。

内容

前時では、人によって見たものが同じでも、感じるものが違ったということを確認する。

自分が調べた国のことをさらに理解するために、それに相当する日本の文化を探していく。

例として、私が韓国と日本で似ていると思うものを挙げる。

<ココがポイント>

この例では、「チヂミ」と「お好み焼き」を挙げたが、あくまで比較するだけであって優劣をつけるものではないということを確認する。

例をもとに自分のテーマに相当する日本の文化を考えてワークシートにメモしていく。
次回から、2つのものを比べながらポスターにまとめていくことを確認する。

生徒の反応

「チヂミ」と「お好み焼き」の例を出したときは、『それやろうと思った～。』とわかりやすい例に飛びつこうとする児童がいた。一方、「なにをもって似ている」とするのかの判断に迷い、とまどっている児童の姿もみられた。

所感

児童には「日本で似ているものを探しましょう。」と発問したのだが、その一方で比べてみたら違うところもあるというのが迷いのたねになってしまった。似ていても違うものもある、ひいては国や場所が変われば違うこともあるというのを伝えなかったのだが、発問を失敗してしまった。

12～13時限目 「2つのことをくらべよう」

目標

2つの事柄を比べながらまとめる。

内容

前時を振り返りながら、2つのことがらを比べることを確認する。
2つの事柄を比べながらポスターにまとめる。

<ココがポイント>

前時に似ている部分があっても違うところがあるためにとまどっている児童が見られたので、違うところがあってもいいということを伝え、違うと思う部分についてもあわせてまとめるように伝えた。

ポスターのできた児童から発表の準備をする。

生徒の反応

前時と比べて児童の動きがスムーズであった。

所感

自分の調べた近くの国の事柄に相当する日本の事柄を考えさせたが、時間があればそれについても詳しく調べる時間をとれたらより深い国際理解につながったのではないかと。

14時限目 「調べたことを発表しよう」

目標

自分の調べたことや意見を発表する。

内容

自分の調べたことをもとに作ったポスターを発表する。

<ココがポイント>

「似ている」ということも人それぞれ違う部分があり、今回は国による違いをありのまま受け止めて欲しかったため、友だちの発表が似ていようが似ていまいが否定的な態度をとらないようあらかじめ指導した。発表の態度についても確認しておく。

生徒の反応

自分の調べたことを発表できるとあって、児童は意欲的であった。またクイズ形式を取り入れるなど、工夫して取り組んでいた。

生徒の感想

- ・日本では食糧はあまり作っていないけど、中国ではたくさん作っている。
- ・韓国語ではあいさつは一通りなのに、なんで日本では朝・昼・夜全部違うのだろう。

所感

発表にとれる時間が少なく、いろいろな観点で比較できていた児童もいたが、一つの発表について詳しく掘り下げることができなかった。児童それぞれの感じた「似ているところ」「違うところ」が全員で共有できたらもっと良いものになっただろう。

3. 成果と課題

最後のまとめが終わった段階でほとんどの児童は、2つの事柄を比べることができていた。ただ、中には日本と近くの国を比べた上で「日本のものが良い」と結論づける児童もいた。結論をだすことは間違っていないが、今回の単元の目標としては違いを認めることが第一歩なので、本当にこういうまとめ方で良かったのか、自身に問うていきたい。お互いの違いを認めるのが難しいということは、私自身今回の中国行きを通じて感じたことでもある。難しいけれども違いを認め、ありのままを受け止めていく姿勢を児童に伝えていきたい。

参考資料

・参考文献

- 『元気が出る！世界の朝ごはん 東・東南アジア』日本図書センター 2007年
- 『国際理解にやくだつ世界の遊び1 アジアの遊び1』尾崎茂編 ポプラ社 1998年
- 『国際理解にやくだつ世界の遊び2 アジアの遊び2』尾崎茂編 ポプラ社 1998年
- 『モノから知る日本と世界の結びつき 食べるモノから見る、日本と世界』
金谷敏博編 共同印刷 2006年
- 『もっと知ろうよ！中国1』納村公子著 飛来社 2003年
- 『国際理解にやくだつ NHK地球たべもの百科9 韓国キムチ』
小桜浩子編 ポプラ社 2001年
- 『世界の市場 アジア編 韓国』山口郁子編 アリス館 2007年
- 『世界の市場 アジア編 中国・台湾』山口郁子編 アリス館 2007年
- 『もっと知ろうよ！ハングル1 あいさつと文字』飛来社 2000年
- 『体験取材！世界の国ぐにー11 中国』堀創志朗 ポプラ社 2007年
- 『体験取材！世界の国ぐにー12 韓国』堀創志朗 ポプラ社 2007年
- 『国際理解にやくだつ 世界の衣食住1 東アジアの食べもの』
図書印刷株式会社 2001年

・参考ホームページ URL

- 「JICA」<http://www.jica.go.jp/>
- 「キッズ外務省」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/index.html>